

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人
------	----	-----	----	-----	----	-----

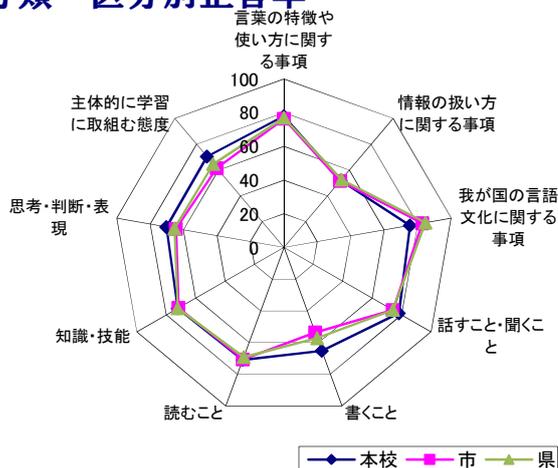
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.0	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	51.9	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	75.4	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	78.1	74.1	74.2
	書くこと	65.3	53.7	57.2
	読むこと	71.0	70.7	69.2
観点	知識・技能	72.2	71.6	72.3
	思考・判断・表現	70.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	70.5	61.6	64.7



## ★指導の工夫と改善

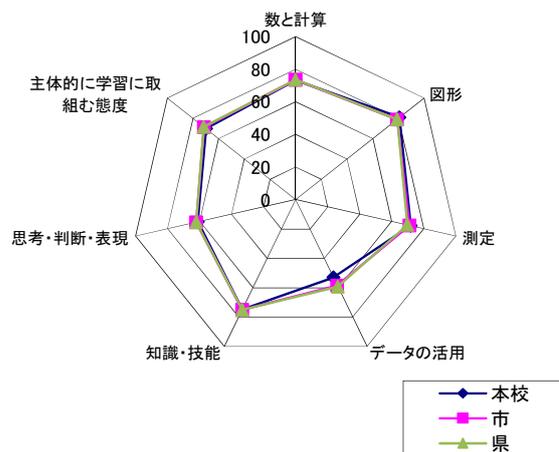
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○漢字の読み書きの正答率は、問題によって差が見られたが、県の平均を上回っているものが多かった。</p> <p>○主語と述語についての問題では、正答率が県の平均より10.2ポイント以上高く、文の構成についての理解が良くできていた。</p> <p>●ローマ字を読む問題の正答率は、50.8%と低く、県の平均も下回っており課題が見られる。</p>	<p>・漢字練習の課題や小テストを定期的実施し、読み書きとも確実な定着を図る。</p> <p>・文の構成のさらに理解を確実なものにするために、プリント学習や、実際に文を書く中で、構成を意識させる指導を繰り返す。</p> <p>・国語の学習以外でも、パソコンでの文字の入力など、ローマ字の読み書きをする活動を意図的に設定し、繰り返し練習させることで定着を図りたい。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○市と同等の正答率であり、県よりはやや高かった。</p> <p>○国語辞典の使い方問題では、県の平均を2.3ポイント上回っている。</p> <p>●説明文の要約や調べたことを文章にまとめ記述する問題において、県の正答率を下回っている。</p>	<p>・文章の中の中心となる語や文を見つけられるように、線を引いたり囲ったりしながら文章を読む指導を行い、大切な語句や文を意識して読むことができるようにする。</p> <p>・朝の読書の時間や図書室を積極的に活用し、たくさん本に触れさせることで、文章を読むことに慣れ、読む速さや内容を理解する力を高められるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●漢字のへんやつくりについての問題は、県の正答率を9.3ポイント下回っている。</p>	<p>・漢字の学習する際に、へんやつくりについても指導を行い、部首についての興味関心を高め、知識を増やすことができるようにする。</p> <p>・朝の学習や宿題などで、へんやつくりについてのいろいろな問題に繰り返し取り組みさせることで定着を図る。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、市や県の平均を4ポイント程度上回っている。特に、話し手が伝えたいことを捉える問題では、正答率が県の平均より9ポイント高い。</p> <p>●話の中心を明確にするための話し手の工夫についての問題の正答率は県の平均をやや下回っている。</p>	<p>・1分間スピーチや授業の中で、話し手の伝えたいことや中心を意識させながら、話を聞く指導を行い、大切なことを捉えて聞く力を育てる。</p> <p>・話したいことの中心を明確にするための、スピーチの工夫について考えさせ、実践する機会を設ける。</p> <p>・国語以外の教科や活動でも、話し合い活動を充実させ、自分の考えを話したり、聞いたりする経験を積ませる。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、市の平均を10ポイント以上上回っている。特に記述問題正答率が県と比べて高く、指定された長さや段落を理解し、自分の考えや理由を明確にして文章を書くことが良くできている。</p> <p>●情報と情報の関係を理解し、考えやその理由を明確にして書く問題では、正答率が31.1%で低く、県の平均も下回っている。</p>	<p>・授業の中で、長さや条件を指定して文章を書く活動を意図的に設定したり、他教科や日記など自分の考えを書く活動を繰り返すことにより、書く力をさらに伸ばしたい。</p> <p>・提示する情報を工夫し、様々な条件で文章を書く課題を意図的に設定し、経験を積ませることで情報の理解や書き方の理解を深められるようにする。</p>
読むこと	<p>○物語の登場人物の気持ちや、説明文の文章の内容を叙述を基に捉える問題では、正答率が県の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●叙述をもとに段落の内容をとらえる問題の正答率は、50%を下回り、説明文の段落の内容を正しく理解する力に課題が見られる。</p>	<p>・物語、説明文とも叙述を基にして読むことについて繰り返し指導し、登場人物の気持ちや場面の様子、文章の大体の内容を捉える力を身に付けさせたい。</p> <p>・説明文の構成を考えたり、中心となる語や文を見つけたりするなど段落のまとまりを意識させながら文章を読む指導を工夫して行うことで、段落の内容や意味を捉えられるようにしたい。</p>

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.2	73.5	73.6
	図形	80.9	79.0	79.1
	測定	71.8	71.1	69.8
	データの活用	53.0	58.4	59.2
観点	知識・技能	74.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	61.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	69.8	71.4	71.6



## ★指導の工夫と改善

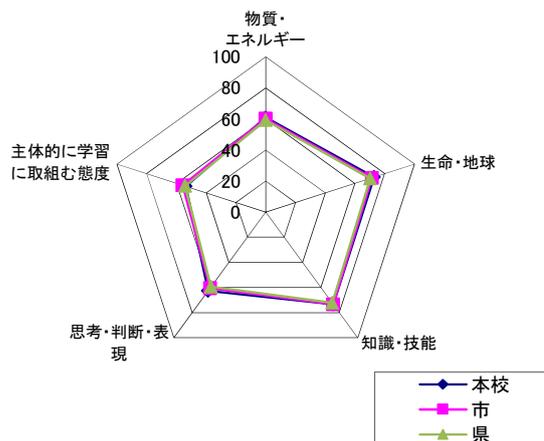
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○文章問題を解くための除法の式を選ぶことがよくできていた。数の相対的な大きさについての理解では、県平均より高かった。</p> <p>●□を使った減法の式に合った文章問題を選んだり、□を使った文章問題を表した図の構造をとらえたりすることに課題が見られる。</p> <p>●<math>35 \times 14</math>の工夫した計算の仕方を説明する問題の正答率は低かった。無回答の児童が多かった。</p>	<p>・基礎問題については、ドリル・プリント・フォローアップ問題などを活用して復習を図る。</p> <p>・□を使った問題については、2年生での「たし算とひき算の図」や「図を使って考えよう」での学習からつながっている。そこで、2年生の段階で半具体物からテープ図に表して考えることのよさを捉えさせ丁寧に指導し、3年生の段階で2年生の復習を取り入れながら指導を工夫していく。</p> <p>・計算の仕方の説明する問題では、低学年の授業で計算の仕方の説明をできるよう指導を工夫していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より高かった。</p> <p>○円の半径を理解し、正しい円を選ぶことがよくできている。</p> <p>●正三角形を作図することが県の平均よりやや低かった。</p>	<p>・デジタル教科書や実物投影機などを利用して、作図の仕方を具体的に提示し、丁寧に指導していく。作図の機会を増やしていく。</p> <p>・低学年から、直線の引き方、図形の形など定規を用いて正確に描けるよう指導し、描く機会を増やしていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高かった。</p> <p>○単位の前にKがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明している問題は、県の平均より高かった。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求める問題の正答率が低かった。はかりの目盛りを正しく読むことはできているが、かごの重さを考えず答えている児童が多かった。</p>	<p>・学んだことを実際の事実や生活と結びつける力を付けるために、身近な問題を教材として取り上げていくようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低かった。</p> <p>○棒グラフの1目盛りの大きさに着目して、間違いを指摘する問題は、県平均よりやや高かったが、無回答の児童も多かった。</p> <p>●棒グラフを正しく読む問題や複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る問題は、県の平均より低かった。最後の問題だったので、無回答率も19.7%と高かった。</p>	<p>・フォローアップシートやAIDリルを活用し、苦手なところを補充していく。</p>

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.9	60.2	59.2
	生命・地球	72.8	71.3	70.3
観点	知識・技能	73.4	73.4	72.3
	思考・判断・表現	62.6	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	53.8	55.9	54.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○大問11「音の性質」の(1)音の大きさと輪ゴムの震え方の関係を答える問題では、正答率が県の平均を約15ポイント上回っている。</p> <p>○大問12「物の重さ」の(2)実験の結果から、物の形を変えても重さは変わらないことを答える問題では、正答率が約10ポイント上回っている。</p> <p>●大問10「磁石の性質」の(1)磁石につくものつかないものを答える問題では、正答率が約9ポイント下回っている。また、(2)磁石が物を引き付ける力を記述で答える問題では、約6ポイント下回っている。</p> <p>●大問12「物の重さ」の(3)容量の大きい飲料水の容器にプラスチックが使われている理由を記述で説明する問題では、正答率が約10ポイント下回っている。</p>	<p>・実験に十分取り組めた問題については、正答率が高かった。今後も授業の中での実験を充実させたり、パソコンを使って動画を見せたりして、理解が深まるような指導をしていく。</p> <p>・記述の問題や文章の空欄に当てはまる言葉を選ぶ問題の正答率が低かったので、考察やまとめを言葉で書く練習が必要である。実験で分かったことをもとに、どんなことが考えられるかを班で話し合ったり、使用する言葉を教師が示しながら、文章で説明したりする活動を取り入れていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○大問2「植物の育ち方」の(1)②ホウセンカの根の様子について答える問題では、正答率が県の平均を約7ポイント上回っている。</p> <p>○大問3「昆虫のからだのつくり」の(1)昆虫の足について答える問題では、正答率が約5ポイント上回っている。</p> <p>○大問6「太陽と地面の様子」の(1)日なたと日かげの湿り具合を答える問題では、正答率が約6ポイント上回っている。</p> <p>●大問5「太陽と地面の様子」の(1)方位磁針の正しい使い方について答える問題では、正答率が約10ポイント下回っている。</p>	<p>・実験用具の使い方に関する正答率が低かったので、今後使用する際には十分復習してから使用する。</p> <p>・文章の空欄に当てはまる言葉を選ぶ問題の正答率が低かったので、考察やまとめを言葉で書く練習が必要である。観察する観点を示し、分かったことをカードに書いたり、グループで話し合ったりする活動を取り入れ、言葉で説明する力をつける。</p> <p>・「昆虫の体のつくり」については選択も記述も正答率も高かった。児童にとって身近で、興味があるものに関しては、言葉で説明する力もついているので、それぞれの単元の導入で、児童の関心を高め、自分たちの生活に関係のあること学習するという意識をもたせたい。</p>

## 宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、県・市と比べても上回っていた。「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の質問では、肯定的回答が83.6%と、市を2ポイント以上上回り、県と比べると4ポイント以上上回る結果となった。「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」では、「はい」と答えた児童の割合が36.1%と高く、市・県と比べても6ポイント以上高かった。「毎日の生活が充実していると感じる」の質問には対して、「はい」と答えた児童の市の平均48.8%、県48.1%と比べて本校の児童は62.3%と大きく上回った。「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問では、肯定的回答が市や県と比べても8ポイント以上高かった。「授業を集中して受けている」の質問では、肯定的回答が93.5%と高く、市・県を2ポイント以上上回った。「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問では、肯定的回答が88.5%で、市や県と比べて8ポイント近く高かった。「学級活動の時間に友達同士で話し合っけてクラスの決まりなどを決めている」では、肯定的回答が9割を超え、市や県の平均を10ポイント以上上回った。「自分はクラスの人の役に立っている」では、肯定的回答が70.5%で、市や県の平均と比べて10ポイント以上上回った。「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」の質問に対して、「はい」と答えた割合は85.2%と、市や県と比べ13ポイント以上上回った。「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」の質問では、肯定的回答が86.9%で、市や県の平均を11ポイント以上上回った。「時間を上手に使うことを心がけている」の質問では、「はい」と答えた割合が59.0%で、市や県と比べても16ポイント以上高かった。「誰に対しても思いやりの心をもって接している」の肯定的回答は93.4%と、市や県を5ポイント近く上回った。「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答は93.4%と市や県を大きく上回った。「家の人と学校での出来事について話をしている」の質問には、91.8%の肯定的回答があり、市や県を大きく上回った。

○学校での授業について、粘り強く、真っ直ぐに取り組もうとしている児童が多いことが伺える。また、日々の学校生活やクラスでの時間が多くの児童にとって居心地のよい雰囲気・場所であることが分かる。児童一人一人ができることをより一層増やしていきながら、誰に対してもあたたかい心で接することができるように、さらに、子供たちの自己肯定感を高められるような支援をしていきたい。また、学校と家庭とのつながりも引き続き高めていきたい。

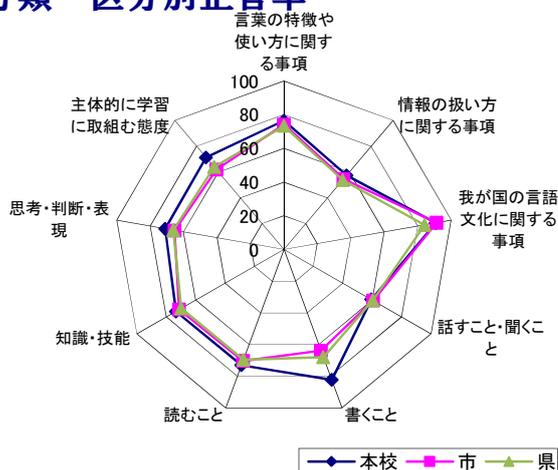
●「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問に対しての肯定的回答が55.7%と、市や県と比べて10ポイント以上低かった。「家で学校の授業の予習をしている」の質問では、市や県の平均と比べて若干ではあるが下回っている。「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、市や県の肯定的回答と比べ、14ポイント以上低かった。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問に対して、「はい・どちらかといえばはい」と答えた児童は68.9%で、市60.7%、県52.5%と比べても難しいと感じている児童が多いことが分かる。「普段、1日当たりどれくらいの時間、TVゲームをしますか」という質問では、市や県に比べてTVゲームをやっている割合が高かった。

●宿題などの与えられた学習に対しては意欲的に取り組む反面、自分で考えたり計画したりして自ら学習する力が備わっていないように感じる。また、予習、復習の大切さを日頃から伝えるとともに、自分から率先して課題を考えたり、探し出して学習する力を高めていきたい。TVゲームの時間についても、学校と家庭が情報を共有し、協力し合いながら連携を図っていきたい。

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.5	74.2	73.3
	情報の扱いに関する事項	57.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	90.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	59.4	60.6	60.4
	書くこと	82.3	63.8	68.0
	読むこと	73.1	70.4	69.6
観点	知識・技能	73.4	71.3	69.9
	思考・判断・表現	71.0	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	71.4	61.9	64.0



## ★指導の工夫と改善

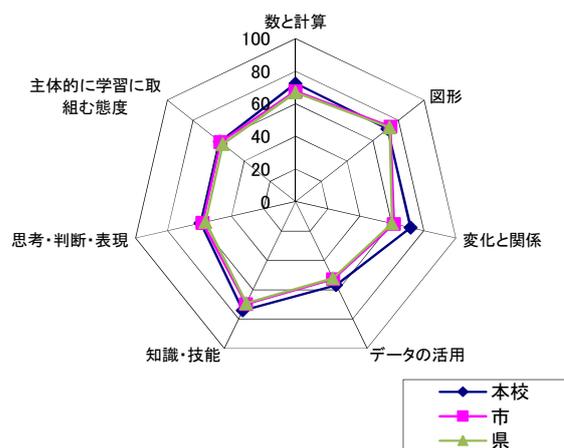
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○正答率は、76.5%で、県の平均より3.2ポイント上回っている ●漢字を正しく書いたり・読んだりする問題では、県の平均より5～6ポイント低い。	・漢字練習をしたり、ミニテストを使ったりして、引き続き漢字の定着を図れるよう指導する。 ・実際に文章を書く中で使えるようにするために、新出漢字を繰り返し練習するだけでなく、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得できるように指導する。
情報の扱いに関する事項	○正答率は、57.4%で、県の平均より3.6ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す設問は、県の平均より0.3ポイント下回っている。	・学級活動や各教科の学習を通して、話し合い活動を積極的に取り入れ、理由や事例などを挙げながら、話すことができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○正答率は、90.8%で、県の平均より6.6ポイント上回っているが、市の平均より、0.4ポイント下回っている。	・今後も継続して、分からない漢字や言葉の意味等は、辞書を進んで活用し、国語辞典や漢字辞典に慣れ親しませる。
話すこと・聞くこと	●正答率は、59.4%で、県の平均より1ポイント下回っている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問は、県の平均より5.5ポイント下回っている。	・朝の1分間スピーチや、国語の時間に限らず、他教科等でも5H1Wを意識させて話すことを継続して指導する。 ・自分の意見を友達に伝えるときに、例を挙げたり、聞き手に問いかけたりしながら話せるように指導する。
書くこと	○正答率は、82.3%で、県の平均より14.3ポイント上回っている。	・今後も継続して、自分の考えと、それを支える理由や事例を明確にして文章を書けるよう指導する。
読むこと	○正答率は、73.1%で、県の平均より3.5ポイント上回っている。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを共有する設問は、県の平均より1.3ポイント下回っている。	・朝の学習や宿題等の学習を通して、説明文の読解力の定着を図れるようにする。 ・説明文や長文では、段落のまとまりを意識させ、要点をまとめたり見出しを付ける活動を意図的に増やしていく。

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区別別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.6	67.8	67.0
	図形	71.7	73.9	73.1
	変化と関係	71.8	61.4	60.2
	データの活用	56.9	52.7	52.1
観点	知識・技能	74.1	69.7	69.2
	思考・判断・表現	59.3	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.9	58.5	56.7



## ★指導の工夫と改善

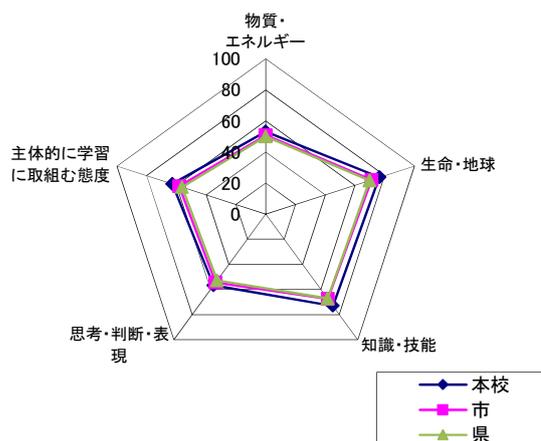
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○正答率が72.6%で、県の平均より4.8ポイント高かった。</p> <p>●概数に対応する範囲を求める問題では、49.2%と県の平均より4.4ポイント低かった。</p> <p>●数の相対的な大きさについて求める問題では、58.5%と県の平均より3.2ポイント低かった。</p>	<p>・基礎問題については、フォローアップ問題・AIDドリルなどを活用して復習を図る。</p> <p>・計算の手順を繰り返し確認するとともに、今後もTTを生かし計算の能力を定着させ、様々な問題で応用できる力を伸ばしていきたい。</p>
図形	<p>●正答率が71.7%で県の平均より2.2ポイント低かった。</p> <p>○1000円札のおよその面積を求める問題の正答率が40%と低かった。面積の公式を用いて、長方形の面積を求めることはできている。</p> <p>●直方体のある辺の平行な辺を求める問題や180°より大きい角の大きさを求める問題では、いずれも正答率が約60%だった。</p>	<p>・基本的な面積の求め方は理解しているので、教室の面積や机の面積を自分で測るなど具体物による操作活動を取り入れていきたい。</p> <p>・デジタル教科書や実物投影機などを利用して、作図の仕方を具体的に提示し、丁寧に指導していく。</p> <p>・立体の問題では、立体模型を用いて、辺の位置関係を理解できるように操作活動を取り入れていきたい。</p>
変化と関係	<p>○正答率が71.8%で、市の平均より10.4ポイント高かった。</p> <p>●基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらかの包帯がよくのびるのかを説明する問題の正答率が43.1%と低かった。また、無解答の児童が市の平均より1.5ポイント多くみられた</p>	<p>・フォローアップシートやAIDドリルを活用し、苦手なところを補充していく。</p> <p>・学習で図、式、言葉などで説明する活動を取り入れ自分で考える力を向上させていく。</p>
データの活用	<p>○正答率が56.9%で、市の平均より4.2ポイント高かった。</p> <p>●折れ線グラフと表の二次元表を読み取る問題の正答率が43.1%と市の平均よりも8.5ポイント低かった</p>	<p>・フォローアップシートやAIDドリルを活用し、苦手なところを補充していく。</p> <p>・データの活用では、算数以外の教科でも資料として掲示したり、表やグラフを使ってまとめる活動を取り入れたりして、読み取る力を向上させていく。</p>

# 宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.1	50.8	50.0
	生命・地球	76.4	71.1	69.8
観点	知識・技能	73.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	56.7	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	62.8	58.1	56.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○物の体積と力の問題にある、予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する設問については、県平均より18.1ポイント上回っている。</p> <p>●物の体積と温度の問題にある、実験の結果をもとに、手作りの噴水の原理を推測する設問については、正答率が県平均より8.4ポイント下回っている。実験と結果を結び付けて理解できていないことが分かる。</p>	<p>・実験したことや学習したことを自分たちの生活の中で経験する事象と関連付けて考える習慣を身に付けさせるよう、授業や日々の生活の中で指導していく。</p> <p>・物質・エネルギーの領域を指導するに当たっては、めあてを明確にし、予想を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという学習の展開を大切にして指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。また、結果や考察を言語化することにも丁寧に指導し、理解と定着を図っていく。</p>
生命・地球	<p>○オオカマキリの季節ごとのようすの問題については県平均より16.58ポイント、満月の見える方位の問題については県平均より22.6ポイント上回っている。身近な自然現象についての理解が高いと考えられる。</p> <p>●雨水のゆくえと地面のようすの問題については、正答率としては県平均より上回っている結果となっているが、誤答の中に類型外誤答や無回答の割合がやや高いことから、学んだ知識の定着が不十分な児童が一定数いることが考えられる。</p>	<p>・観察や実験を重視するとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的な自然現象を想起させながら、知識の定着を図っていくようにする。</p> <p>・観察や実験をするときには、一人一人が十分な時間をかけて取り組めるよう、時間の取り方や器具の個数、グループの人数などを工夫しながら指導にあたる。</p> <p>・観察や実験のポイントを具体的に示すなどして活動時の視点をもたせるようにし、必要に応じて補助的な発問も加えながら、各児童が事象を正確に理解することができるようにする。</p>

## 宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の肯定割合は、いずれも市や県の平均を上回っており、自主的に家庭学習に取り組む意欲や態度が育ってきていることが分かる。今後も自主的な意欲や態度を奨励し、家庭学習の習慣化に向けた指導、発達段階に応じた自主学習の取り組み方の指導に力を入れていきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことある」と答えた児童は9割近くで、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定割合も市や県の平均を上回っている。学習内容の定着を図るため、授業の導入や問題提示の仕方を工夫した成果が表れてきたと考える。今後も、課題解決に向け、「めあて」「まとめ」「振り返り」を教科の特性や単元の展開、本時のねらい等に応じて適切に設定し、主体的な学びを促していきたい。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問では、肯定割合が市や県の平均より10ポイント低い。自分の思いや考えを適切な言葉で表現できるように、自分の考えを説明したり、ペアやグループで話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業づくりを工夫していきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」児童は、市や県の肯定割合を大きく下回った。クラスでの自己有用感を高めるために、児童同士を互いに協力させて取り組ませたり、児童が活躍できる場を設定したりすることで、互いに認め合う雰囲気をつくってきたい。そして、教師も児童の頑張りをたくさん誉め賞賛したり、家庭に頑張りを伝えたりすることで、自信をつけさせたい。

●「ふだん一日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームを除く)。」では、「4時間以上」の回答が26.2%で一番多く、市の15.6%、県の15%を大きく上回る結果となった。コロナ禍で家庭で過ごす時間が増えたことも一因かもしれないが、家庭での有意義な過ごし方について、学級活動で話し合ったり、学年だより等で家庭に啓発したりするなどして、メディアを見る時間を減らし、家庭学習や読書の時間を含めた家庭で過ごす時間の使い方について改善を図ってきたい。

## 宇都宮市立御幸が原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進	課題意識が高まる教材や問題との出合いの工夫(導入の重視) 活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度の育成(話し合い活動の重視)	4・5年生ともに「勉強をされていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」に肯定的に回答した児童が約70%で、市や県の平均を上回っている。 4年生では、話し合い活動における肯定的な回答が高かった。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	授業での「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示とその活動の工夫 分かりやすい板書とノート指導の工夫 習熟度別学習や少人数学習、TT、朝の学習時の担任外の個別指導等の効果的な実施	基本的な知識や技能に関わる力は、市や県の平均を上回るものがあつたが、個人差が大きい。今後も、単元ごとに授業の指導体制を検討し、指導内容を工夫していく。また、朝の学習の時間における個別指導を継続していく。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示する。	「家で学校の宿題をしている」の肯定的な回答は4年生が98%、5年生が94%と高いが、自ら考えて取り組む態度に関わる「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は、4・5年生ともに50%未満である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えをもち、表現する力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる場の設定や学習活動の工夫	学習のまとめや振り返りの場面で、キーワードや条件などを示して学習したことを書かせたり、まとめたことや考えたことを児童同士で確認したりすることで、自分の考えを明確に書くことができるようにする。